

奈加美神社百周年記念事業

奈加美神社 宮司 北岡忠澄

暦の上では立夏を過ぎ、まもなく田植えを迎えるこの季節、夕暮れに田んぼから雨蛙が鳴き始め、その泣き声がなんとも心地よく、日本人に生まれてよかったなあと、つくづく感じる今日この頃です。この蛙の鳴き声や、秋の虫の音に風情や情緒を感じるのは、島国であり四季を通じて豊かな自然・風土に育まれてきた日本人特有の感性のようです。ありがたい事です。

最近「食」については様々な問題が取り立たされておりますが、日本は古来より「豊葦原の瑞穂の国」（日本国の美称・豊かな水辺に葦が生い茂り、五穀豊穡に恵まれる美し国）と称えられる農業国でしたが、政府の矛盾した政策で食料自給率が四〇パーセント以下という嘆かわしい状態が続いております。この近郷はもとより日本の田園が永く久しく豊かに耕作されることを切に願っております。

さて、氏子皆様にはこの度の「奈加美神社改称百周年記念事業」に際しまして、絶大なるご協力、ご奉賛を賜り深謝申し上げます。第一期工事・社務所新築工事の進捗状況につきましては、昨年末入札により施工業者（今坂工務店）を選定し、一月二十一日に旧社務所の解体安全祈願祭を執り行い、解体後に泉佐野市による埋蔵文化財（湊遺跡）の調査が行われました。旧社務所建設前（大正時代）に一度調

祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう
万延元年（一八六〇年）に勝海舟を艦長とする咸臨丸により初めて「日の丸」が海を渡りアメリカへ。その時記念に日米双方から「国旗」の交換が行われました。
つづく

奈加美神社
第3号
平成20年春号
5月15日発行
泉佐野市中庄834
電話462-7080

査が行われていたのか？特に目立った出土品も無くほぼ予定通り二月十七日に奉賛会・町内会の役員のご参列のもと、雪が舞うなか地鎮祭を執り行いました。三月には浄化槽を据付け、四月には基礎工事、去る五月十二日に目出度く上棟祭を迎える事が出来ました。

新社務所の竣工は本年十二月上旬を予定致しております。来年には第二期工事として、拝殿の御屋根の修復、外壁の塗替え等、各所の修繕を予定致しております。今回の百周年記念事業の奉賛活動については、氏子総代・町内会・農業関係団体・敬神婦人会を中心に選出頂いて結成されました「奈加美神社奉賛会」の役員さんを中心に行っております。すでにご奉賛頂きました皆様にはご厚志に心から御礼申し上げますと共に、これからご協力を賜ります皆様には、何卒温かいご支援をお願い申し上げます。

第一期工事 新社務所上棟祭

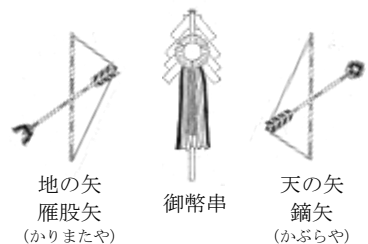
去る五月十二日に晴天に恵まれて新社務所上棟祭を迎え、棟木に御幣・五色布・末廣を飾り付けた御幣串を立て、右には天の矢、左には地の矢を飾り、祭場には忌竹を立て、注連縄を張廻らし、神事が厳粛に執り行われました。先ず修祓（お祓い）、降神、献饌、祝詞奏上に続き、四方・棟木清祓の後、今坂



棟飾



上棟祭



地の矢
雁股矢
(かりまたや)

御幣串

天の矢
鏑矢
(かぶらや)



基礎

破魔矢とも云われ、天と地に鏑(やじり)を向け邪気払いの意味とされている

鎮守の杜の植物 — 蓮 —

はす

私の趣味は「園芸」でございます。「ガーデニング」では無くあくまでも「園芸」です。和花を基本に、如何に奈加美神社の景観に合った植物を育てるのかを、いつも無い知恵を絞って考えております。例えば第一号で紹介させて頂いた「花菖蒲」はご祭神のご神徳に因んで栽培しておりますし、まだまだ形にはなりません。当社の神紋「藤巴」に因んで「藤」にも力を入れております。

さて、今回は「蓮」を紹介させて頂きたいと思っております。「蓮」？と云えば仏花やから神社にはどうやろ？というご意見もあるかもしれませんが、実は写真のとおり、今から約四〇〇年前に建立された本殿（大阪府指定文化財）の正面唐破風軒下の彫刻に、おそらく「蓮に唐草」である綺麗な彫刻があるのです。四〇〇年前の事ですので仏教的影響も受けていると思えますが、去年親類に蓮根を頂いて育ててみたところ牡丹のような白の八重の花が咲き、それを聞きつけられた愛好家の方から蓮根の交換をお申し出を頂きまして、逆に多くの品種を分けて頂きました。都合十鉢程の挑戦ですが、上手く行けば八月頃には咲くのかなと思っております。是非お立ち寄り下さい。



廬山白蓮



本殿唐破風軒下の彫刻（蓮に唐草）

また、花菖蒲も六月中旬内に並べております。昨年はまいちの出来でしたが、今年は更に品種も増え、期待できそうです。お待ち致しております。

ご祭神の紹介

奈加美神社には多くの神

様がお祀りされておりますが、主祭神は菅田別命（ほむたわけのみこと）と申し上げ第十五代天皇の応神天皇であります。また配祭神の比売命（ひめのみこと・后）と、息長帯姫命（おきながたらしひめ）さまと呼ばれております。

勝運・厄除開運・安産・学業等の神様として篤く信仰されております。

総本社は大阪府の宇佐八幡宮で、全国には約八万の神社があると云われておりますが、その内、八幡さまをご祭神とする神社が一番多く、約二万社を数えます。

母君神功皇后が異国に出兵した際、その胎内にてすでに異国を征して国威を輝かしたことから胎中天皇とも称され、武運の神として武門の誉れ高い清和源氏の氏神として尊崇されました。

源頼朝が天下を統一し鎌倉幕府を開くにあたって鶴岡八幡宮を遷祀し、幕府の守護社として東国武士の中心の信仰となり、全国的に八幡信仰が広がりを見せました。

今後の行事予定

- 五月下旬～六月中 花菖蒲奉納
- 六月二十日 御田植祭（虫送り）
- 七月下旬～八月中 サギ草・蓮奉納



ご祈祷のご案内

お宮参り・厄除け・安産祈願
七五三・車のお祓い
地鎮祭・住宅入居のお祓い
神道家霊祭等、各種お祓い
受付致しております
お電話にてご予約お申込み
下さい

神道豆知識～其の参～

奈加美神社での参拝の順番は？



奈加美神社には中庄・上瓦屋・湊の村々の神様が御本殿に合祀されており、境内末社として大宮稻荷神社、計知の神（ケチノカミ）がお祀りされております。

順序としては、鳥居をくぐって神域に入り、手水舎で手と口をすすぎ身と心をお清めします。

まずは御本殿から参拝します。賽銭箱にお賽銭を納めます。鈴緒を振って鈴を鳴らし、清々しい鈴の音色により心を鎮め、お清めします。「二拝二拍手一拝」の作法でお参りします。

続いて、大宮稻荷神社、計知の神をお参りします。

※参拝者から「身内に不幸があったのだけどお参りはどうすればよいでしょうか？」とのご質問を頂きますが、目安として神道で云う五十日、仏教で云う四十九日を超えてからお参り下さいとお答えしております。五十日を経ずにどうしてもお参りしたいと云う方には、清めのお祓いを受けて頂いてからお参り頂きます。